

「がん 早期発見へ検診を」

徳大でフォーラム 最新治療を紹介

最新のがん治療への理解を深めるフォーラム（徳島大学病院がん診療連携センター主催、徳島がん対策センター、徳島新聞社共催）が27日、徳島大蔵本キャンパスの長井記念ホールであった。徳島大病院の医師ら10人がさまざまながん治療について講演し、約300人が耳を傾けた。

消化器内科の岡本耕一講師は胃がんの診断方法や治療例を説明しながら、検査中にリアルタイムでがん検出をサポートできるAI搭載の内視鏡、がんの原因となる特定の遺伝子に作用する分子標的薬を紹介。「初期の胃がんは症状がないことも多い。早期発見のために検診をきちんと受けてほ

最新のがん治療への理解を深める徳島大学病院がん診療連携センターフォーラム（徳島市の徳島大蔵本キャンパス



しい」とし、生活習慣の改善による予防を訴えた。

地域外科診療部の柏原秀也特任准教授は、大腸がんに関する最新の外科治療について発表した。関節のあるロボットアームを使った腹腔鏡手術、時間短縮やリスク減につながる経肛門手術を取り上げ、「患者の負担が少なくなった。これからも根治性、機能的、安全性を追求した高度な手術を提供していく」と語った。

フォーラムの様子は3月下旬以降に県内のケーブルテレビ各局で放送する。

（矢田諭史）